

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376500357
法人名	社会福祉法人 寿宝会
事業所名	グループホーム輝楽苑
訪問調査日	平成 20 年 2 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 23 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2376500357
法人名	社会福祉法人 寿宝会
事業所名	グループホーム輝楽苑
所在地	愛知県豊川市御津町赤根山田12番地 (電 話) 0533-75-2800

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】平成20 年 1月 28日事業所記入）

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 全階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,200 円	その他の経費(月額)	44,800 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.3 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ユリクリニック、たけもとクリニック、可知病院、今泉歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋建て2ユニットのホームは玄関を中心に左右に分かれ、各ユニットのリビングからは中庭に出る事ができる。中庭は眺めれば癒しの空間であり、アーチ型のベンチでおやつを食べたりバーベキューを楽しんだりできる憩いの場でもある。「共に生きる仲間・・・」をホーム独自の理念とし、ホーム長は「心のこもったケアは接し方や言葉遣いにも自然に出てくる。だからこそ大切」との考えを持ち、職員と共に一日一日を大切にケアに取り組んでいる。また、利用者の出来る事を奪わないよう、利用者の得意分野での役割を考え利用者自身を尊重した支援を心掛けている。協力医との関係も良く、24時間対応できる医療体制が整い、重度化にも可能な限り対応する方針である。楽しい行事も充実しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点である地域での生活支援については、近所の八百屋や散歩へ出かけ、地域への外出の機会を増やし、地域との円滑な関係作りに努めている。また、パート職員も研修や会議に参加出来るような体制作りがされている。地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念をつくりあげ、地域や人と人とのつながりを大切にし、心が通った生活が送れるよう支援している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で行い、サービスの見直しの良い機会とし更に、改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は市合併前は3ヶ月毎に実施されていたが、合併後は2ヶ月毎の開催を予定している。出席者は利用者家族、地区の区長、会長、民生委員、地域包括支援センターの職員である。利用者の状況や活動報告を行い、地域の人々にホームで暮らす利用者への理解を深めてもらうよう努めている。また、防災対策についても出席者に意見を聴き、話し合いがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、「おきらく新聞」や法人の新聞と共に、手紙や写真を送付し利用者の健康状態や日々の様子、金銭の報告をしている。家族の来訪時には個々に話を聴くように心掛けており、玄関前に意見箱も設置され、家族から直接意見を言ってもらえるような雰囲気作りや関係作りに努めている。苦情や要望は職員で話し合い、検討して運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の環境における運動として、ホームの周りを利用者と一緒に清掃を行い、海岸清掃には職員が参加している。近所への外出の機会を増やし、地域の人々と挨拶をかわしホームで暮らす利用者のことを知ってもらうように努めている。敬老会やお祭りに参加したり、地域の回覧でホームの行事の参加の呼びかけを行なっている。その他、園児や中学生の訪問等による交流が図られている。また、夏祭りには法人として福祉相談コーナーを設け、地域に貢献できるように取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる仲間・・・」をホーム独自の理念とし、地域や人と人とのつながりを大切にし、心が通った生活が送れるよう支援している。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、今後も、利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしができるよう地域との交流を深めていくことを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関を入り見やすい位置に掲示され、各フロアの目標に反映されている。また、具体的なケアに活かせるようにミーティング時には話し合いがされている。しかし、つくりあげて間もない為、職員の理解は十分とは言えない。	○	全職員が理念を理解するようミーティングや申し送り時には必ず理念に触れ確認し合い、具体的なケアの統一に取り組んでいくことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の環境におけるクリーン運動として、ホームの周りを利用者と清掃を行い海岸清掃には職員が参加している。敬老会やお祭りに参加し、地域の回覧でホームの行事への参加の呼びかけを行なっている。その他園児や中学生の訪問等による交流が図られている。夏祭りには法人として福祉相談コーナーを設け、地域に貢献できるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行い見直しや改善を行っている。地域への外出の機会を増やし、地域との円滑な関係作りに努め、パート職員も研修や会議に参加出来るように体制を考慮している。前回の評価を活かしてサービスの改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は市合併前は3ヶ月毎に実施されてい		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	たが、合併後は2ヶ月毎の開催を予定している。出席者は利用者家族、地区の区長、会長、民生委員、地域包括支援センターの職員である。利用者の状況や活動報告を行い地域の人々にホームで暮らす利用者の関心と理解を深めてもらうように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に一度、市の連絡協議会に出席し情報を得ている。また、困ったことや分からないことは市町村へ問い合わせたり、出向いたりして連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も、市町村担当者との関係作りを積極的に行い、連携を図り、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は隔日～半年に1度と様々である。家族の来訪時には、日々の様子を話したり、必要に応じて電話で連絡をとっている。また、毎月「おきらく新聞」や法人の新聞と共に、手紙や写真を送付し利用者の健康状態や日々の様子、金銭の報告をしている。職員の異動も、家族の来訪時や手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には個々に話を聴くように心掛けており、家族から直接意見を言ってもらえるような雰囲気作りや関係作りに努めている。苦情や要望については職員で話し合い、検討して運営に反映させている。玄関前には意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット毎に職員は固定し、部屋担当を決めている。利用者は終日フロア間を行き来して、利用者と職員は全員が良い関係を作り出している。異動は最小限に抑える努力はしているがやむ終えない場合もある。新しいチーフが異動してきたばかりであったが、利用者の様子は落ち着いていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も含め全職員が経験年数や力量に応じて、法人内外の研修に参加出来るようにしている。研修内容については報告書にまとめ、全職員が閲覧できるようにしている。また入社時より、利用者への接し方や言葉遣い等、心のこもったケアを大切にするようにホーム長が熱心に指導をしている。	○	職員の向上心や、利用者の立場に立った様々な意見を大切にして、グループ全体でケアの向上が図れるよう取り組むことを望む。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は県のグループホーム協会の研修に参加し、情報交換を行い交流を図っている。ホーム長は定期的な市の連絡協議会への出席や法人内のホーム長同士の協議会での、意見交換、それによりサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、入居前には何度か訪問してもらうこともある。職員は本人の出来ることを奪わないような支援方法を話し合い、家族に伝え、納得してもらいサービスを開始するよう努めている。また、利用者が不安な時は、寄り添いじっくりと話を聴き安心してもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中でお互いに冗談を言い合い、明るく元気をもらいながら生活している。職員は、調理、裁縫、洗濯等、それぞれの得意分野については、教えてもらいながら生活している。また、書道が得意な利用者はホームの理念を達筆に書き上げていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活リズムを大切にし、出来ることを奪わないケアを心掛けている。毎日の会話や昔話から思いや気持ちを引き出せるようにして、利用者の視点に立った支援が行えるようにしている。また、週に一回のリハビリや、野球観戦等、本人の希望に沿えるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聴き、協力医のアドバイスや、日頃の様子を考慮して職員で話し合い、それらを基に介護計画書を作成している。		
		○現状に即した介護計画の見直し	定期的にケアマネミーティングを行い、職員が情報を持ち寄り、		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスをを行い、職員が情報を把握して、協力医のアドバイスと、利用者や家族の要望を取り入れ見直しを行っている。心身や状態変化に応じては、その都度見直し新たに介護計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態や家族の希望に応じ、入居前からのかかりつけ医への通院の支援を行っている。また、リハビリの送迎や、墓参り、理美容院への同行、買物等の外出支援を行い、出来る限り利用者の希望に沿った柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望があれば、入居前からのかかりつけ医に家族だけで受診するのではなく、職員も付き添い協力医からの情報や日頃の状況を説明している。また、2週間に1回協力医の往診があり、日常の健康管理や、夜間及び緊急時の対応について、相談したり、指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者や家族に終末期についての意思確認をしておき、ホームで対応できるケアについて説明し、同意書を書いてもらっている。また、終末期を迎えた時点で、どう過ごしたいかを再度確認し、職員は「顔見知りの人に囲まれて、最後を迎えてほしい」との想いを大切にして、本人や家族、協力医と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう職員の意識や理解を高め、あたたかい言葉をかけるよう心掛けている。職員は定期的に言葉遣いについてチェックを行い、日常的に確認と改善に取り組んでいる。掲示物や便り等は、家族の同意を得る等個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者ごとの生活のリズムを把握して、その日その時の利用者の気持ちを尊重し、その人なりの時間の流れに添った支援を心掛けている。晩酌の習慣がある利用者には、健康上の飲酒量に配慮しながらお酒の提供も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には、その人の好きな食べ物でお祝いする楽しみを教えて、全体会議の場で献立の希望を聞いている。職員は調理や盛り付け等で、利用者が出来ることを見極めて一緒に行っている。また、職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日午後1時～4時頃が入浴時間である。仲の良い利用者は一緒に入浴を楽しみ、便秘のため下剤服用の利用者には排便の後で夜中でも入浴をしている。しかし、介助が必要な利用者には、状況を考えて職員の都合で入浴してもらうこともある。脱衣所に温度計が設置され、浴室との温度差に配慮してい	○	職員の都合ではなく、利用者一人ひとりの希望に沿い、清潔保持に考慮し、楽しい入浴となるような支援を望む。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が日々の生活の中で、家事や得意分野において教える事に張り合いや喜びを感じてもらえるように支援している。達筆に書かれた理念は利用者の作品であったり、食事に時間がかかる利用者の横には、いつも見守っている他の利用者がいたり、心温まる光景も見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や喫茶店、お花見等行事として行う楽しみな外出支援は充実している。寒い冬は外出したがない利用者が多く季節によっては外出の機会が少ないのが現状である。利用者の希望があれば、散歩がてらコンビニに買物に出かけたり、ドライブに出かけるよう努めている。	○	利用者の希望に応じ、五感刺激の機会を増やすためにも、日常的に外出ができるような体制作りを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を通ると大きなチャイムが鳴るようになっており、朝7時から夜9時までには玄関には鍵をかけていない。職員は利用者の日々の様子を把握し、外出しそうな時はさりげなく声をかけたり、一緒に外出する等して見守りを心掛けて、自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成して、年2回消防署の協力を得て地震や火災状況等を設定した防災訓練を行っている。地域の人とは連携が取れていない現状であるが、運営推進会議にて、今後どのように取り組んで協力体制作りを行っていくかを話し合っている。	○	地域の人に避難訓練に参加してもらえるよう呼びかけ、夜間の防災避難訓練の計画等にも取り組み、災害時に地域との連携が図れるよう今後に期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェックシートに記入され、水分摂取量については、病状により必要な利用者のみ記入されており、他の利用者についてはおおまかな把握がされていた。週1回体重測定を行い、個々の状態を把握し、気になることは管理栄養士に相談しアドバイスを得て、利用者の健康状態が維持できるよう支援している。	○	一日量と回数を示した水分摂取量は、利用者の体調変化を早期発見するためにも、チェックシートに水分摂取量記入欄を設け、記録に残されることを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く開放感があり、リビングには利用者の写真や書などが飾られソファや畳のスペースもあり、家庭的な雰囲気の中で、利用者が思いおもいにくつろげる工夫がされている。24時間ファンセンサーが設置され、消臭剤も利用し不快な臭いがないよう心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、「橋姫」「若葉」等、源氏物語からとった名前がついており、名札の横には利用者の作品や写真などが飾られ、自分の部屋とわかるような工夫がされている。居室には、それぞれ使い慣れたダンスなどが持ち込まれ、写真も飾られていた。また、ベッドからの転倒を防ぐため、床に布団を敷き寝ている利用者もいた。		